

# 2 2 7

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第12回です。

入試が目前のこの期に及んでなお甘えを見せ続けたYMくんも、この日ばかりは違っていました。

「今日のメダル授与式の開催を決めるのは君たちだと先生は言った。みんながあれだけメダルを心待ちにしている、もう情けないことはできないと思った。僕もメダルがほしい。絶対にメダル授与式をしたいと思ってがんばった。」

子どもたちの文を読んで私は胸を打たれました。

もしかすると中には合格ではなく、このイベントやメダルそのものがほしいという幼い高揚感を感じていた子もいたかもしれません。それでもクラスが一丸となってがんばった事実は私の胸を熱くさせました。そして私は昨日練った以上の熱を込めて、子どもたちにメッセージを書きました。

式の手順ですが、キャラクターや TOP で歩んできた歴史から渡す順番を決め、1 人ずつ前に進み出ます。まず田宮がメッセージを読み上げ、次いで私がメッセージを読み上げ、首に掛けます。

ここで、当日の空気に触れるためにその日のビデオを見返しました。

「M には強い心の芯がある。」

「TOP 生 H の物語はここから始まる。」

「S、本当の受験、本当の努力を始めよう。」

「A は日本一の塾に通ったんだ。」

「YM、メダル授与式で見事な覚悟を見せた。」

「G にはまっすぐな素直さがある。」

「あの幼かった Y が、見事なキャプテンになった。」

「S の実力は本物。ただ技のエースで終わるな。」

「誰よりも不器用な T には、誰よりも努力できるという偉大な才能があった。」

すばらしい式だったのはよく覚えていたのですが、驚いたことがありました。驚いたことに、メダルを受け取った 6 期生のほとんど全員が感極

まって泣いていたのです。

人は生きていく中で、いろんな節目を迎えます。

誕生日、成人式、結婚式、今際の際。

その中で、どれだけありったけの想いをまっすぐに伝え合う機会がある  
でしょうか。

そういう意味でこのメダル授与式は、毎年私たちがどれだけ大きなもの  
を手渡し、彼らが受け取っているのかということを感じます。

そんな想いを馳せるほど、彼らはメダルを大切に受け取っていました。

キャプテンのYくんなどは席に戻ってからずっと、メダルを握りしめて  
いました。

あと1カ月あまりで新6年生となる7期生たちの大きな大きな拍手の  
中、メダル授与式は最高の一体感で幕を閉じました。

(第13回につづく)

2020年12月25日

大井 雄之